

Istanbul Weekly vol.5-no.30

イスタンブール ウィークリー

発行：在イスタンブール日本国総領事館 発行日：2016年9月9日（金）

— 今週のポイント —

- 政治**：3件の非常事態宣言下での法令発出。公務員4万人強が解職。
エルドアン大統領、G20 杭州サミットに出席、主要各国首脳と会談。
- 経済**：8月の輸出、自動車販売増により急増。
東芝、ヴェステルと欧州のTVビジネスで戦略的提携。
- 治安**：ISIL「暗殺チーム」がイスタンブールで摘発。
クーデター後、車両爆弾39台を押収、19名の自爆テロリストを検挙。
アタテュルク空港に車両用X線検査装置が導入。
- 軍事**：シリアでトルコ軍兵士3名がISILの攻撃により死亡。
エルドアン大統領：「ラッカ解放作戦参加に問題なし。」
- 社会**：アタテュルク空港周辺の渋滞が緩和へ。
イスタンブールで、国際美術展示会が開催。

政治

【内政】

●3件の非常事態宣言下での法令発出、公務員4万人強が解職

1日、トルコ政府は、今般の非常事態宣言下では6件目～8件目に相当する3件の法令を発出した。同法令によって、公務員42,881名が解職の処分となり、これらの者は、裁判所の決定を要することなく身分を剥奪され、今後の職務復帰や公職への就職は認められない。また、国外のギョレン系教育機関が発行する学位が無効とされる決定も行われた。(9月2日付M紙インターネット版)

●世論調査結果：AKPの支持率は2%増加し、51.5%へ

世論調査機関DENGÉの調査結果によれば、7月15日のクーデター未遂事件後、AKP支持率は昨年11月の総選挙時と比して2%増加して51.5%、CHPは25.6%（0.28%増加）、MHPは13.3%（1.4%増加）、HDPは8.1%（2.66%減少）となった。また、回答者の96%が政府によるギョレン派の捜査を支持すると回答した。(9月2日付S紙インターネット版)

●政府：ギョレン捜査で無実の者を冤罪で処分しないよう強調

7日、エルドアン大統領の主宰下で閣議が開催され、同閣議の終了後、ジャンクリ副首相は記者会見で、ギョレン派の捜査・拘束に関し、「後に処分の誤りが明らかになれば、同じポストに戻す」と明言した。前日には、エルドアン大統領がG20 杭州サミットからの帰途「馬の足跡と犬の足跡」が混在した状態だ。」としてギョレン派と関係ない人間が嫌疑をかけられている状況を認めた上で「この種の誤りを避けることが必要」と述べていた。(9月7日付S紙

21面他)

●MHPがアクシェネル氏を党除名の処分決定

8日、MHP規律委員会は、反執行部派の中心的存在であったメラル・アクシェネル氏を同党から除名する処分を決定した。アクシェネル氏は同決定に対する司法機関への異議申し立ての権利を有するが、司法機関では手続き面の瑕疵の有無のみを審査し、訴訟内容自体には関知しない。なお、前日7日には同氏を支援してきたイェニチャー紙論説員など複数名がギョレン派への関与の疑いで拘束された。(9月8日付M紙インターネット版)

【外交】

●エルドアン大統領、G20 杭州サミットに出席、主要各国首脳と会談

(1)中国・杭州で開催されたG20首脳会談に出席したエルドアン大統領は、各国首脳を前に7月15日に発生したクーデター未遂事件やテロとの闘いを説明するとともに、各国首脳と会談した。3日、エルドアン首相と習近平・中国国家主席の間で行われた会談で、同国家主席はトルコ政府のギョレン派との闘いを支持すると表明した。また、両国の間で、エネルギー、原子力安全、農業検疫の3分野での協力に関する合意文書が調印された(9月3日付M紙インターネット版)

(2)3日、エルドアン大統領は、杭州市内でプーチン露大統領と会談した。両首脳は、ロシアからトルコへのチャーター便再開を祝しつつ、両国関係が正常化されたことを確認し合った。(9月3日付M紙インターネット版)

(3)4日、エルドアン大統領は、杭州市内のホテルでオバマ大統領と会談した。エルドアン大統領は、クーデター未遂事件に際する米国の支持表明に対する謝意を表明した。ギョ

レン氏の引き渡しに関し、エルドアン大統領は、米国の調査団が訪問中であり、近くトルコ法務大臣等の閣僚レベルが本件問題の協議のために訪米することを明らかにした。また、同大統領は、トルコ南部のシリア国境沿いへの「テロの回廊」構築を許容しないと述べた。オバマ大統領もトルコ国境からのISILの駆逐を支援すると述べた。(9月5日付H紙1面)

(4)4日、エルドアン大統領は、杭州市内でメルケル独首相と会談した。メルケル首相は、独としてクーデター未遂事件を強く非難するとともに、トルコのISILとの闘いに対する支持を表明した。また、両首脳は、トルコ公民に対するEUへの査証免除実現に向けた対話を継続していくことで一致した。(9月5日付H紙インターネット版)。

経済

【マクロ経済】

●8月の輸出、自動車販売増により急増

8月の輸出は前年同月比6.9%増加し111億6000万ドル、過去28か月で最大の増加率となった。EU諸国への輸出が最大。輸出の15%を占める自動車部門が同23%増の16億8000万ドルとなり、輸出額増に貢献した。既製服は16億1000万ドル、化学原料は12億1000万ドルをそれぞれ輸出。1-8月の輸出額は前年同期比3.1%減少し926億ドル。(9月2日付HDN紙11面)

●1-8月の自動車輸出額、12%増加

1-8月の自動車輸出額は、前年同期比12.23%増加し151億4000万ドル。輸出額全体の17%を占める。(9月5日付HDN紙10面)

●8月の消費者物価指数、5ヶ月ぶりに低下

8月の消費者物価指数は前月比29%低下。5か月ぶりの低下となった。衣料品や食品価格の低下が影響した。前年同月比では8.05%上昇しており、中央銀行の目標とする7.5%を上回っている。食品を除いたコアインフレ率も8.41%上昇した。(9月6日付HDN紙11面)

●車両登録台数2000万台

7月末現在の車両登録台数は2064万台を超えた。種類別割合は、乗用車が53%、小型トラックが16%、二輪車が15%。1-7月の登録台数は43万2000台で、そのうち63%が白色であった。7月単月の登録台数は、前月比21%減少、前年同月比では36%減少し9万台。(9月8日付HDN紙1、11面)

【経済政策】

●政府、税制優遇を促進

アーバル財務相は、国会再開後、多くの税制優遇措置に着手すると述べた。トルコのGDPに占める投資と輸出の割合を高め、中長期的に経済成長を維持することが目的。(9月7日付HDN紙10面)

【エネルギー関連】

●トルコと中国、原子力安全等の3分野で協力

3日、トルコと中国は原子力の安全、エネルギー及び農産品健康証明の3分野の協力文書に署名した。中国はトルコの第3原発の建設に興味を示している。エネルギー分野の協力協定では、両国は再生可能エネルギー及び石炭に関する協定に署名した。(9月5日付HDN紙11面)

【企業等の動き】

●東芝、ヴェステルと欧州のTVビジネスで戦略的提携

1日、家電大手ヴェステルは、東芝映像ソリューションと戦略的なブランドライセンス契約を締結。ヴェステル社は、東芝と研究、開発、品質保証の分野で密に協力し、東

芝ブランドテレビの欧州市場での生産、販売、マーケティング、サプライチェーンを担う。(9月2日付HDN紙インターネット版)

●ユルドゥズホールディング、2021年までに17億ドルを投資

ウルケル・ユルドゥズホールディング会長は、今後5年間で17億ドルをトルコに投資すると発表。ゲブゼに大規模な研究開発センターを設立する。同グループは5万人を雇用しているが、今年末までに4500人の新たな雇用を創出する予定。(9月6日付HDN紙1、10面)

●ルノー、トルコの工場に2億ユーロを投資

オヤック・ルノーはトルコでメガーヌ・セダンの新型モデルを生産すると発表。2億ユーロ投資する。同モデルの80%はトルコ国外に輸出される予定。(9月8日付HDN紙11面)

【クーデター未遂事件関連の動き】

●40億ドルのFETO関連資産を没収

環境都市相は、政府がFETOメンバーの所有する40億ドル相当の資産を没収し国有化したと発表した。(9月5日付HDN紙1、10面)

●FETO調査で押収された企業、銀行に17億ドルのリスクをもたらす

ジャニクリ副首相は、クーデター未遂事件捜査の一部として押収された企業が銀行部門に17億ドルの深刻なリスクをもたらしているが、政府のマネジメントによりこれらのリスクを最小限にすると述べた。押収された企業は、法令によりトルコ預金保険機構(TMSF)に管理されている。(9月7日付HDN紙1、10面)

●ボイダック・ホールディング、政府へ移管

ボイダック・ホールディングはトルコ預金保険機構(TMSF)に強制的に移管された。クーデター未遂事件捜査の一部。ボイダック側は、この決定について知らされておらず、法的権利をすべて行使すると述べた。(9月7日付HDN紙10面)

●ユルドゥルム首相、ビジネス界のギュレン派パージの方針に言及

4日、ユルドゥルム首相は、ビジネス界に対するギュレン派取り締まりの範囲について、「我々は明確な取り締まり範囲を設定している。問題のある人間がいれば、組織から排除するというのである。組織自体は、問題なく仕事を続けられる。」と述べた。(9月5日付HT紙14面)

【その他】

●ムーディーズ：外資系企業にとりトルコの政情不安定のリスクは最少

ムーディーズは、5日に発表したレポートの中で、トルコでビジネスを行っている外資系企業の信用情報はトルコの政情不安定に大きく影響を受けることはないとした。これら企業の多くは多国籍企業であり、全世界でビジネスを行っている状況を踏まえると影響は限定的であるとした。(9月5日付HDN紙インターネット版)

治安

【FETO関係】

●裁判官と検察官543名が解雇

1日、新たにFETOメンバーであるとして543名の裁判官と検察官計543名の解雇が発表された。これまでに解雇された裁判官・警察官の合計は、3390名となった。(9月2日付HT紙13面)

●MITの職員3名拘束

1日、情報機関MITの職員3名がFETOのメンバーである容

疑で拘束された。(9月2日付HT紙17面)

●**クーデターを首謀したグループの「イマーム」の1人がイスタンブールで拘束**

5日早朝、コジャエリ県のイスタンブール県との境に位置するゲブゼ区の副区長であったオルハン・スパフオールが、FETO関係者の容疑で、自宅のあるイスタンブール・ベイコズ区で拘束された。スパフオールは、ギュレン組織内の地方リーダーを意味する言葉として使われる「イマーム」の地位にいたと、元ギュレン派の人物からテレビで名指しされていた。スパフオールは、元トルコ軍の中佐でトルコ軍を解雇された後、イスタンブール市の職員として働き、2011年からゲブゼ区の副区長となっていた。(9月6日HDN紙インターネット版)

●**ジャーナリスト暗殺事件の現場にギュレン派ジャンダルマ兵士**

2007年に殺された、有名なアルメニア系トルコ人ジャーナリスト、フロント・ディンク紙の殺害現場の防犯カメラ画像に、ギュレン組織の一員として摘発されたジャンダルマ(軍警察)の兵士6名が記録されていた。彼らと同殺害事件との密接な関係についての疑惑が浮上している。(9月7日付HT紙16面)

【PKK関連】

●**シールト県とヴァン県で兵士等3名死亡**

1日、シールト県でPKKとの戦闘で特殊部隊の軍曹1名が死亡した。ヴァン県でも、PKK掃討オペレーション中の特殊部隊兵士と村落警護員1名が死亡した。(9月2日付HT紙16面)

●**PKKによる攻撃により3都市で8名が死亡**

4日、マルディン県で、PKKによる攻撃で兵士2名が死亡、同1名が負傷。同日ハッカリ県での戦闘機による空爆支援を受けたPKK掃討オペレーションにおいて、兵士1名が死亡、6名が負傷した。さらに、PKKとの戦闘で同日ヴァン県でも兵士1名が死亡、治安部隊18名が負傷した。(9月5日付HT紙17面)

●**ハッカリ県で兵士2名死亡**

5日、ハッカリ県におけるPKKオペレーションにおいて兵士2名が死亡した。(9月6日付HT紙16面)

●**ハッカリ県チュクルジャでのPKK掃討作戦でPKK戦闘員157名を“無力化”**

5日、トルコ軍は、ハッカリ県のチュクルジャで継続されているPKK掃討オペレーションにより、現在までに157名のPKK戦闘員が殺害又は負傷するなど“無力化”されたと発表。(9月6日付HT紙16面)

●**HDP共同代表：収監中のオジャラン PKK 首領の状況が不明であれば緊張が高まると警告**

6日、HDPのデミルタシュ共同代表は、クルド人達が、現在収監中のPKK首領アブドゥッラー・オジャラン首領の現況について情報を得られなければ、緊張が高まるであろう」と発言した。これに対して、ボズダー法務大臣は、「オジャラン首領の健康状態に問題は無く、安全も保証されている。HDP共同代表は、オジャランの健康状態について間違った情報を流すことで、人々を操作しようとしている。」と反論した。(9月7日付HDN紙インターネット版)

●**ディヤルバクル県警、車両爆弾が61台あると警告**

7日、ディヤルバクル県警は、県内にPKKの61台の車両爆弾があるため、警戒を高めるようにと指示した。また、同県警は、デモ等が行われる場所で、車両爆弾攻撃が行われる可能性のあることや、攻撃目標を定めたテロが行われるとの情報があることにも言及した。(9月8日付T24.comより)

【ISIL関係】

●**アンカラ近郊でISILがリクルート等を実施**

警察からアンカラ第4重罪裁判所に送付された報告書によると、ISILがアンカラ近郊の村々で、人々のリクルート活動を行っていたことが判明した。同報告書には、シリアで元ISILの戦闘員であった26名について記載されている。それによると、26名はそれぞれ、ISILのプロパガンダや、組織作り、会合の実施、関係者の国内移送、重火器やロケット砲を作成できる戦闘員のリクルート活動等に従事していた。警察の対テロ対策部門によるISILオペレーションが行われ、合計40名のISIL関係者が拘束、関係書類等が押収された。(9月6日付HDN紙インターネット版)

●**アンカラでISIL関係者20名が拘束**

6日、アンカラでISILオペレーションが行われ、20名のISIL関係者が拘束された。(9月6日M紙インターネット版)

●**ISIL「暗殺チーム」がイスタンブールで摘発**

6日、イスタンブール県警テロ対策部は、ISIL摘発オペレーションを、イスタンブール市内アタシェヒル区、バシャクシェヒル区、カドキョイ区、ウスキュダル区、ウムラニエ区で実施し、11名のISIL関係者を拘束した。拘束されたメンバーは、「暗殺チーム」と言われるISILのセルであるという。(9月7日付HT紙13面)

【その他】

●**クーデター後、車両爆弾39台を押収、19名の自爆テロリストを検挙**

ジャニクリ副首相は、「クーデター後の各種捜査により、合計13.1トンの爆薬を押収し、手製爆弾129個を押収し、229件の事案を発生前に阻止した。そのうち155件は、爆弾の押収であり、自動車爆弾の発見が39台、拘束された自爆テロリストが19名であった。」と述べた。(9月8日付HT紙14面)

●**アタテュルク空港に車両用X線検査装置が導入**

イスタンブールのアタテュルク国際空港の車両入場ゲートに、車両用X線検査装置が導入された。車両内に隠匿されている武器や爆発物の探知に効果を発揮することが期待されているが、導入は1台のみであり、警察官によって不審と認められた車両のみが同機器により検査される。(9月1日付M紙インターネット版)(写真同)



軍事

●**820名の国防省職員が解雇**

1日、国防省は、820名の職員を新たに解雇したと発表。解雇された職員は、陸軍と海軍を担当していた。(9月2日付HT紙13面)

●**トルコ軍が、北シリアトルコ国境沿いのISILを掃討と発表**

4日、トルコ軍は、北シリアのトルコ国境沿いのISILの支配領域であった、アズズからジャラーブス間の約90キロの領域について、自由シリア軍とトルコ軍の支援によりISILを駆逐したと発表した。(9月5日付HT紙13面)

●国産武装無人機がトルコ上空のパトロールを開始

トルコの初めての国産武装無人機(ドローン)バイラクタル TB2 が、トルコ上空のパトロールを開始したと、同機の製造会社バイカルマキネ技術部長のツイッターが伝えた。同機はHAM-L 高性能弾薬を搭載している。バイラクタル TB2 は、2014 年から軍の上空からのパトロール任務には就いていたが、武器を搭載しての任務は初となる。このプロジェクトは、国産兵器の導入を進めるトルコ軍の方針の一環である。(9月5日付S紙インターネット版)

●エルドアン大統領、シリア停戦に言及

5日、エルドアン大統領は訪問先の中国における記者会見で、「アレッポ地域の問題について我々はロシアと協力を進め、停戦のために働くべきだ。米国、ロシアと外務省レベルで調整を続けている。犠牲祭期間の前に停戦を実現させ、アレッポ市民が空爆されぬようにしたい。」などと述べた。(9月6日付HT紙14面)

●エルドアン大統領シリア領内の飛行禁止区域の設置を求める

5日、エルドアン大統領は、かねてから希求していたシリア国内における、安全地帯の設置とその上空に対する飛行禁止区域の設置について、G20 サミットに出席した各国リーダーの前で問題提起を行いその実現を求めた。(9月5日付HT紙14面)

●米軍人 50 名が新型長距離砲の運用のためトルコに到着
約 50 名の米軍兵士が、シリア国境近くに配備される予定の新型長距離ロケットシステム (HIMARS) の運用のため、トルコに到着した。HIMARS は、ガジアンテップ県のシリア国境沿いに配置され、92 キロメートルの射程距離があり、ISIL 攻撃に使用された。9月3日、アンカラの米国大使館は、米軍はシリア国境沿いに展開した「HIMARS」を使用して一昼夜 ISIL に対して攻撃を実施した。対 ISIL 作戦での米国とトルコの協力の最新のステップである。」とツイートした。(9月5日M紙インターネット版)

●シリアでトルコ軍兵士 3 名が ISIL の攻撃により死亡

6日、シリア領内アレッポ県ウグフ郡に展開していたトルコ軍の戦車 2 台に対して、ISIL 戦闘員がロケット攻撃を実施し、兵士 3 名が死亡し、同 4 名が負傷した。(9月7日付HT紙13面)

●エルドアン大統領：「ラッカ解放作戦参加に問題なし」

6日、エルドアン大統領は、G20 サミットから帰国する際、記者団の質問に答え、「ラッカは、ISIL の重要な中心地であり、オバマ大統領は、ラッカ攻略について、トルコと何かしたいと考えている。オバマ大統領には、我々はラッカ攻略参加に問題ないと答えた。両国の軍の当局者の間で何ができるかについて具体的に調整が行われるであろう。」と述べた。(9月7日付HDN紙インターネット版)

●「ユーフラテスの盾」作戦の状況

7日、トルコ軍のシリア領内進出作戦「ユーフラテスの盾」の現状について、ジャニクリ副首相は、「不幸にも、トルコ軍兵士 4 名が死亡し、19 名が負傷した。戦車 4 台が大きな被害を受け、装甲車 1 台が軽微な被害を負った。自由シリア軍兵士は、16 名が死亡し、27 名が負傷した。ISIL と PYD 側は、100 名近くが殺害され、5 名が負傷している。」と述べた。(9月8日付HT紙14面)

●ロシアはトルコのシリア軍事進出について懸念を表明

7日、ロシアはトルコ軍の「ユーフラテスの盾」作戦について、「我々は、トルコがシリアで反政府勢力を支援していることを懸念している。そのような行為はシリアの軍事、政治状況をより複雑にする。」との声明を発表。(9月8日付HT紙12面)

生活

●アタテュルク空港のメトロ入口にゲート型金属探知機が設置

テロ対策の予防措置として、アタテュルク空港のメトロ入口にゲート型金属探知機が設置された。乗客は改札口を通った後、金属探知機を通過することとなる。また、他の駅同様に荷物検査等も随時行われている。(9月2日付HT紙21面他)

●7.2 規模の地震がマルマラ海で発生の可能性

CNN トルコの番組内で、地球物理学教授であるナジ氏が、詳細な研究の結果、マルマラ海で最低でもマグニチュード 7.2 規模の地震が発生する可能性について確証を得た事を明らかにした。地震が発生する時期については、1999 年のギョルジュック地震から 30 年以内の発生が想定されており、この予測は 5~10 年ほど前後する可能性があることが明らかにされた。(9月4日付TGRTインターネット版)

●アタテュルク空港周辺の渋滞が緩和へ

空港テロとクーデター未遂以降、警察による車両検査のため、アタテュルク空港入口で発生していた渋滞が、2 車線から従来通り 3 車線へ戻ったことにより、一部緩和された。これまで空港周辺では、車両検査により 25 分から 45 分の渋滞が慢性的に発生していた。なお、8月31日には車両用エックス線検査装置も設置されている。(9月5日付HT紙22面他)



(写真は9月3日付M紙インターネット版から)

●古代の穀物が復活する

2800 年前に遡る小麦やごま等の穀物がヴァン西部にある古代城塞跡の発掘現場から発見された。2014 年に発掘が開始されたチャブシュテペ城跡は、紀元前 8 世紀頃にウラルトゥ国王によって建造された城で、発掘現場では 3 つの穀物倉庫跡が発見されている。発掘を行うラフェット考古学教授によると、もしこの穀物の種が火災によるものではなく自然に炭化したものであれば、2800 年前の穀物が復活する可能性がある。(9月5日付HDN紙7面他)



(写真は9月4日付HDN紙インターネット版から)

●アタテュルク空港で離発着数、記録更新

国家航空局 (DHMI) の発表によると、4日アタテュルク空港で1日に1454便の離発着数で記録を更新し、利用旅客

数は14万2002名に及んだ。昨年度は7月24日に、離発着数1403便、15万148名の旅客のべ人数を記録している。犠牲祭前後は更なる記録更新が期待されている。(9月5日付Yenisafak紙インターネット版他)

●**イスタンブールで、国際美術展示会が開催**

3日から25日にかけて、独立芸術協会主催「第三回国際イスタンブールトリエンナーレ」がタクシム・ジュムフリエツェット芸術ギャラリーで開催される。この美術展示会には40名のシリア等の難民芸術家が参加しており、「祖国を追われること」をテーマに作品が展示されている。(9月5日付M紙インターネット版他)



(写真は9月5日付M紙インターネット版から)

●**ボスポラス第3大橋の現金料金所で渋滞が発生**

第3大橋が開通後、トラック等の大型車両による第2大橋の通行が禁止された一方、第3大橋のOSG・HGSシステムが一部で機能しておらず、現金料金所に並ぶ渋滞が発生している。5日、トラックの運転手達が国道にでて車の通行を妨害し、警察が駆けつけるまで、現金料金所の改善を行うよう抗議を行った。(9月6日付HT紙19面他)

注：本文中の略語の正式名称は以下の通りです。

略語	正式名称	略語	正式名称
AFAD	首相府緊急災害事態対応総局	ÖSB	PKKの防衛隊
AKP	公正発展党（現与党）	OIB	首相府民営化管理庁
BDDK	銀行監督庁	PKK	クルディスタン労働党
BDP	平和民主主義党（クルド政党）	PYD	シリア民主主義連合党
BOT	建設・運営・譲渡方式	RP	福祉党
CHP	共和人民党（最大野党）	RTÜK	ラジオ・テレビ高等機構
DEP	民主党	SNC	シリア国民評議会
DHKP/C	革命人民解放党/戦線	SPK	証券取引監査院
DHMI	国家航空局	SSM	防衛産業庁
DISK	先進労働組合連合	TBB	トルコ弁護士協会／トルコ銀行協会
DTK	民主主義社会評議会	TCDD	トルコ国鉄
DTP	民主社会党	TDHB	トルコ歯科医師会
DYP	正道党	TESK	トルコ商工業連合
EDAM	経済外交政策センター	THY	ターキッシュ・エアラインズ
EPDK	エネルギー市場監督庁	TİKKO	トルコ労働者・農民解放軍
HDP	人民民主党（クルド政党）	TMMOB	トルコ・エンジニア・建築会議連盟
HSYK	裁判官・検事高等委員会	TOKİ	トルコ集合住宅開発局
İDO	イスタンブール海上フェリー会社	TOMA	放水装甲車
İHH	人権・自由・人道支援団体	TPAO	トルコ石油公団
İKSV	イスタンブール文化芸術財団	TTB	トルコ医師会
İSO	イスタンブール産業会議所	TÜBİTAK	トルコ科学技術研究機構
İşİD	イラク・レバントのイスラム国（アルカイダ系）	TÜİK	トルコ統計庁
İTO	イスタンブール商工会議所	TÜPRAS	トルコ石油精製会社
KCK	クルディスタン共同体同盟（PKK系）	TÜSİAD	トルコ産業・実業家協会
KESK	公務員労働組合連合	TÜYİD	トルコ投資家関係協会
KRG	北イラク政府	YÖK	トルコ高等教育評議会
MHP	民族主義者行動党（野党）	YSK	選挙高等委員会
MİT	国家諜報機関		

注：本文中のニュースソースの略称は以下の通りです。

トルコ語新聞		英字新聞		通信社	
Akşam	A	Economist	EC	Anadolu News Agency	AA
Cumhuriyet	C	International New York Times	INYT	Agence France Presse	AFP
Haberturk	HT	Hürriyet Daily News	HDN	Gihan News Agency	CA
Hürriyet	H	Today's Zaman	TZ	Doğan News Agency	DA
Milliyet	M			Ihlas News Agency	IA
Posta	P			Interpress	IP
Radikal	R				
Sabah	S				
Taraf	T				
Vatan	V				
Zaman	Z				

在イスタンブール日本国総領事館

電話：0212-317-4600、FAX：0212-317-4604、E-Mail：istanbulweekly@it.mofa.go.jp

WEB：http://www.istanbul.tr.emb-japan.go.jp/index_j.html

Facebook：http://www.facebook.com/Japonya.Istanbul.Baskonsoloslugu

- トルコに90日以上滞在される方は総領事館に在留届を提出願います。
- 新たに配信希望される方、あるいは今後の配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

istanbulweekly@it.mofa.go.jp

【被害】

年	窃盗		詐欺		ぼったくりバー		高額絨毯購入(相談)	
	今週	通算	今週	通算	今週	通算	今週	通算
2015年		8件		6件		20件		9件
2016年	0件	5件	0件	2件	0件	16件	0件	2件

- 今週の被害の届けはありませんでした。

★当館 HP 更新のお知らせ★

- 治安速報：トルコへのISIL空爆への参加(08/24)
- 治安速報：ガジアンテップ県の結婚式で自爆テロ(08/21)
- 【危険情報】トルコ（アンカラ中心部及びエセンボア空港に「レベル1：十分注意してください。」の危険情報を新規発出）(08/18)